

## 富士周辺の山の最高峰へ 毛無山(天子山塊)

実施日 2014年5月25日(日)

天候 晴れ

リーダー 涌井 良明

参加者 若村勝昭、涌井良明、山崎富美恵、白石恵美子、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、遠井謙策、宇野輝代、石附恵理子、濱田優美子 計11名

費用 交通費負担金3,000円/人

タイム 高尾駅南口(6:30)麓登山口P(8:30~8:40)沢沿い休(9:20~9:25)1300m付近休(10:15~10:20)地蔵峠(11:05~11:50)昼食丸山(13:04~13:10)毛無山・三角点(13:40~14:00)下山路分岐(14:10)5合目休(15:05~15:15)麓登山口P(16:40)

晴れだがボワっとした空気感の中、登山口をスタート。最奥私有地の有料Pはほぼ満車、きつい登りが人気なのか？

案内板に導かれ地蔵峠と尾根道分岐に至り、登りは沢沿いに地蔵峠経由の道を取る。沢から離れずに何回か徒渉を繰り返しながら高度を上げていく、なるほど大雨や水量の多い時の通行は困難な道である。30分程で比丘尼(ビクニ)の滝を見る。沢沿いの道は適度に荒れており、踏跡や赤布(テープ)を失わずに登る必要がある。ロープの下がるへつりがあつたり沢筋らしい道が続く。



その昔は金が採れたらしい甲斐中山金山の窯の跡があつたりするが、この険しい山中でも金の採掘が行われていたのだろう。いつの世もヒトの金への執着心が偲ばれる。

小さな尾根を越して荒れ気味の沢まで下ると、正面枝沢入口の2~3mの岩にペンキとロープが下がっている。ロープを掴んでゴボウ気味に登ると樹林の道に



なり稜線も近づいた感じになる、一気に急登の斜面を登って尾根に出た所が地蔵峠である。

一息入れるが、リーダーの緊張と虚弱体質?のためかやや体調不良になったためにここで休憩を兼ねて昼食にした。

皆さんにはご心配いただき有難うございました。十分に休憩時間を取ってから、残り400mの登りになった。毛無山手前の丸山を目指して尾根道を登って行く、右手の富士はやたら大きい巨体がぼやっと見える程度である。軟弱Lなのでペースも更にゆっくりとなるが何とか長い頂稜を持つ丸山に到着、この辺りではやっと芽吹きが始まった頃で標高の節理を実感する。その先緩く登って下山路とする麓からの道を合わせて10分程で毛無山頂(三角点)に着く。

小広い頂で富士側は開けてい

るが今日はややミルク色の中に

その巨体がぼんやりと浮かぶ様に見える。証拠写真の撮りっこをしてから、急でかつ長い下山道に向かう、麓への分岐から左方向へ、直ぐに傾斜が急になった道が延々と続くことになる。やがて九合目の標識を見るが一合目まで掲示されており、登り下り共に目安になって有難い? 所々に岩混じりになる急な下りが続くが、たまに現れる名残りのミツバツツジが楽しみをくれる。五合目で休憩を入れて、更にい



くつかのロープに掴る岩場を下り、高さもあるなかなか美しい不動滝を展望台から眺めたりしながら高度を下げる。急傾斜はあまり変わらないまま下り切って今朝ほど通過した地蔵峠との分岐に。急な下りもここで終わり、のんびりと麓へ戻る、登山口近くの麓神社で無事の下山に感謝して駐車場に戻った。

標高差1000mに伴う急傾斜、それなりの沢路歩きの徒渉やへつり、ロープのある岩場の乗越と下り・岩混じりの登山道など変化のある道で、夏山のトレーニングとして最適な山なのかも知れない。

メンバー各位には標高差と長時間行動をお楽しみいただけただしょうか?

(記&写真・涌井 良明)